

# 令和元年度 事業報告

## 1 概況

国の経済報告では、令和元年度を通して、雇用情勢は改善しているとされ、有効求人倍率も、高い水準で推移し、人手不足が深刻であった。

さらに、労働力人口の減少が見込まれる中、生きがいづくりや健康づくりなどを目的に、臨時的かつ短期的又はその他の軽易な業務にかかる就業機会を確保し、高齢者に提供するシルバー人材センターの役割は、益々、重要になっている。

このような中、本センターの令和元年度受注状況に関して、まず、請負契約での受注件数は、個人などからの受注が減少したことにより、19,305件となり、前年度に比べ932件、4.6%の減少となった。

また、受注金額は、公共や個人などからの受注が減少したことにより、573,020千円となり、前年度に比べ20,874千円、3.5%の減少となった。

一方、派遣事業については、受注件数が、1,093件となり、前年度に比べ261件、19.3%の減少となったものの、受注金額は、ほぼ前年度並みとなり、これを前述の請負契約にかかる実績に加えた本センター全体の受注状況では、受注件数は、20,398件、前年度に比べ1,193件、5.5%の減少、受注金額は、690,666千円、前年度に比べ21,082千円、3.0%の減少となった。

また、会員数については、継続雇用制度の運用や幅広い産業での深刻な人手不足の影響などから、令和元年度末で1,690人となり、前年度末に比べ26人、1.5%減少した。

また、令和元年度から、第3次中期計画の運用を開始し、令和元年度取り組んだ具体的な施策としては、会員の加入促進を目指し、これまで同様、就業相談や入会説明会を実施するとともに、新たに表彰制度の運用拡大による1人1会員入会運動の推進、入会時期に応じた初年度会費の検討など、また、普及・啓発活動としては、高松市が実施したイベントへの参加や街頭啓発活動の拡充のほか、新たに映像媒体の活用など取組の充実にも努めた。

また、国の「高齢者活用・現役世代雇用サポート事業」の活用や、法に基づき派遣事業の拡大、新たに空き家の外観見回り事業の実施、南部地区センターと連携した剪定班員の確保など就業機会の拡大にも努めた。

一方、安全就業に関しては、引き続き、自動車運転業務に従事する会員に対し設定した年齢制限や研修制度の的確な運用を行うとともに、事務局だよりなどを通じた安全就業の周知・啓発を始め、より多くの会員の参加を促すため安全講習会の開催場所などの見直し、飛散防止ネットなど安全対策用具の充実にも取り組んだ。

令和元年度シルバー保険適用の傷害・損害賠償事故件数は、ここ10数年で最も少なかった平成29年度、30年度と、ほぼ同じであった。

また、適正就業に関しては、長期間、同一職場に就業する会員を対象に適正就業の徹底や、就業先への巡回調査の定期的な実施などに努めた。

併せて、消費税率の引上げを受け配分金等の改定を行うなど、将来を見据え、本センターの円滑・着実な事業運営に努めた。